「梨泰院クラス」の感想　（武内ブログからの抜粋）

A　「梨泰院クラス・ロス」

これは私だけの「梨泰院クラス・ロス」なのか、それとも誰が見ても心動かされ、ロスになるドラマなのかわからない。今話題の映画「愛の不時着」や「マリッジ・ストリー」（4月17日の朝日新聞夕刊で絶賛）や「Glee」を見ても何かもの足りない。今朝のYahooニュースには、「梨泰院クラス」の反響が広がっていることが書かれていた（下記に一部転載）

＜新型コロナウイルスの感染拡大による外出自粛が広がるなか、動画配信サービスNetflixの利用者数が急増しているという。Netflixではちょっとした韓流ドラマブームが起きているらしい。ここ最近、Netflix日本国内の「今日の総合TOP10」で連日上位にランクインしているのが、『梨泰院（イテウォン）クラス』という韓国ドラマだ。

3月28日から配信開始されて以来、常に上位にランクインするほど、不動の人気を誇っている。韓国の六本木”とも言われた梨泰院の街にひょっこり現れた“頑固者”の青年がのし上がっていく痛快なサクセスストーリーとなっているのが、『梨泰院クラス』だ。

 何らかの理由で中卒の前科者になった主人公が、不条理な世の中に立ち向かって前へ前へと進み、壮大な野望を実現させていく。冷静な判断力と熱い情熱を持った青年の道のりが、多くの視聴者を一喜一憂させた。 韓国では今年1月31日から3月21日までケーブル局のJTBCで放送され、視聴率と話題性でトップを守り続けた。最終回の視聴率は16.5%（首都圏18.3%）をマーク。

『梨泰院クラス』がここまで人気を集めた理由は何か。 主人公のパク・セロイ役を熱演した俳優パク・ソジュンの存在を挙げられる。 同性の男性たちが見ても惚れ惚れするような男気も感じさせる。また、今や世界的な人気を誇るBTS(防弾少年団や、俳優パク・ボゴムといった人気スターとのコラボも、大きな話題を呼んだ。

主演パク・ソジュンとも親交が深いBTSのVは、自らプロデュースしたドラマの挿入歌『Sweet Night』を歌って親友をサポートした。 いずれにしても『梨泰院クラス』。その人気は、しばらく続きそうだ。（慎武宏、Ｙahooニュース。4月18日）

<https://news.yahoo.co.jp/byline/shinmukoeng/20200418-00173980/>

また、ネットではいろいろ出ていて、バックの音楽が一部の映像と一緒に見ることもできる。https://coneru-web.com/itaewonclass-ost/

追記；」友人から、下記のようなコメントをもらった。

＜BTSのダンス解説をする講師が、やはりこのドラマを見た後、しばらくロスになったとのことです。BTSのVの歌が宣伝もしなかったのに76ケ国の音源チャートで上位になったと聞きました。BTSの人気はすごいですね。18日（土）、19日（日）、オンラインコンサートがありましたが、世界で最高220万人が同時視聴したそうです.。私も一つ推薦したい韓国ドラマがあります。「雲が描いた月明かり」というドラです。俳優パク・ボゴムと女優キム・ユジョンが主人公の大河ドラマです。いろんな世代の人々がみて楽しむドラマで、奥が深いです。　https://coneru-web.com/drama15/＞

追記２　ネットフリクスで韓国の別のテレビドラマを観たが、題材は高校生の援助交際を扱っていて、そこに登場する人たちで人間的に魅力的な人はほとんどいなくて、酷いいじめやケンカや格闘場面が多く、見終わって、嫌な後味だけが残った。当然のことながら韓国のドラマが皆いいわけではない。別に文部科学省推薦のドラマを求めているわけではないが、人の醜い面だけを描くドラマの存在意義はどこにあるのか。

B　梨泰院クラス・ロス２

先に書いたが、「梨泰院クラス」のOST（ https://coneru-web.com/itaewonclass-ost/ ）の4番目（가호 \_ 시작(밴드 ver.) [Live]と、6番目（하현우 \_ 돌덩이 [Live]）の男の子とバンドの歌が特に印象的。8番目の女の子の失恋の歌もいい。

k-ポップはこれまで聴いたことがないので、有名な歌手やバンドなのかどうかわからないが、こんなレベルの音楽が韓国には多いとすると、音楽的に日本の先を行っているなと思う。

C　「梨泰院クラス」ロス３

ネットでも2020年のお薦めの韓国ドラマとして、前に書いた「梨泰院クラス」があがっている。その理由をみると、私の感想とほぼ同じで、「わが意を得たり」というよりは、私の感覚が凡庸なのにがっかりする。

＜【あらすじ】高校生のパク・セロイは、転校初日にいじめられていたクラスメイトを見過ごせず、加害者のグニョンを殴る。グニョンの父であり、自身の父の勤める会社の会長であるチャン会長に謝罪を求められるが応じなかったことで退学処分に。その後、交通事故で帰らぬ人となった父を轢き殺した相手がグニョンだと判明。しかし権力により逮捕されなかったグニャンを殴ったセロイは不当捜査により逮捕されてしまう。数年後、刑期満了で出所したセロイは中卒・前科者のレッテルを背負いながらも、懸命に働き金を稼ぎ、ついに父の果たせなかった夢である居酒屋を梨泰院にオープンさせる。ソシオパス、婚外子、元ヤクザ、トランスジェンダーといった様々な個性をもつ仲間とともに、無謀とも思われる“飲食業トップ”を目指すセロイ。そして、チャン親子への復讐を心に強く誓う…＞

＜面白すぎる…！と話題沸騰！いわゆる“韓国ドラマ”っぽい恋愛要素は少ないものの、主人公セロイの下克上ストーリーに共感してドラマにハマる人がどんどん増えている本作。特に、これまであまり韓ドラを観ていなかった人や男性にもファンが多いようす。

徹底的に悪者であるチャン会長と息子のグニョンが、気持ちいいまでに最低な奴なのもハマる要因かも…！？　さまざまなコンプレックスを抱える若者たちが、芯の強いセロイと出会うことで少しずつ人として成長していく姿も勇気をもらえ、時に涙を誘います。

ビジネスの視点からも学びが多い！という声も多数。そして、なんといっても音楽とのマッチングが素晴らしいのも本作の魅力。「あのOSTが頭から離れない…！」という人も続出しているんだとか。

また、どんぐりのような髪型ですら似合ってしまうパク・ソジュンのイケメンっぷりにも注目です！　<https://korea.kaigai-drama-board.com/posts/21?p=9>

下記のOSTには232万回の視聴がある。他の曲は、679万回、1317万回のもあり、sweet night は2796万回という信じられない視聴数である。

D　「梨泰院クラス」の片思い

これは自分の少し素直でない感覚のせいかもしれないが、両想いより片思いの方が、心を動かされる。レ・ミゼラ、ブルの映画を見て、「結ばれる二人の愛よりは、新郎に片思いで、悲しみの中で革命の銃弾に倒れて死んでいく女性の思いの方が、はるかに心打たれるものがあった」（2013年8月3日、ブログ）と書いた。

上白石萌音の片思いの歌On My Ownはよかったが、両想いのドラマ「恋は続くどこまでも」は、上白石のよさが出ていない。今の朝ドラ「エール」は、両想いの二人が外の障害を乗り越えていく物語のようでもの足りない。

韓国ドラマ「梨泰院クラス」は、先に書いたように、片思いがたくさん描かれたドラマである。グンス→イソ、イソ→セロイ、セロイ→スマ←グオン。その他にもいくつかある。

ヒロイン・イソの片思いはかなり徹底していて、その実現性はかなり低く、両想いの二人に割って入ろうとするもので、ライバル⊡スマは超美人で性格も穏やかであり、誰からも好かれる女性で、到底勝ち目がないと思われる。それをはっきり言われた時のヒロイン号泣の仕方がすごい。そのバックに流れる曲（OSTの8番目の　ユン・ミレーsay）がヒロインの悲しみをよく表現している。このドラマの1つのクライマックスのように思う。

この韓国ドラマでは片思いは公言され皆知っているが、日本の片思いは、葉隠れの恋（好きなことも相手に悟られてはいけない）的なところがあり、また多田道太郎が言うように「恋愛についていえば、それはオリジナルの向こうに、オリジナルを超えて自分だけの夢をみることである。自分だけのコピーをつくることである。（中略）それはコピーの向こうに、コピーを超えて、自分だけの夢、自分だけの「オリジナル」を夢みることである。もし，ほんとうのオリジナルである女優が彼の前に現われれば、彼は「それは違う」といわざるをえまい＞（『管理社会の影』₍日本ブリタニカ、1979年）というように、自分だけの夢を見るオタク的なところがある（思われた女性からみたら、ストーカー的な気味悪さを感じるかも知れない）

以前（2016年9月3日）のブログに書いたように、村上春樹の短編に、あこがれていた女性の現実の姿を、覗き見によって知ってしまった若い男性が、そのあこがれがなくなっていく様子を描いたものがある。（「野球場」『回転木馬のデット・ヒート』（講談社文庫、1988年）このように日本の片思いは、他者への愛というより自己愛に近い。

韓国ドラマ「梨泰院クラス」のヒロイン・イソのセロイに対する片思いは、彼を傷つけるものに対しては身を挺して守り、敵を殲滅するという強い意志に基づいたものであり、動物の母親が子を守る姿に似ている。その思いが相手に伝わらないのは悲しいが、そのことで気持ちが怯むことはない。でも相手が好きでしょうがいという気持ちは、態度に出てしまい。相手から少しでも優しくされると思わず笑顔が出てしまう。日本の女性のように（？）、自分の感情を隠したり、すねたりしないところが、見ていて気持ちがよい。

このドラマをみていると、演技が自然で、感情の行き来がよくわかる。日本のテレビドラマは、俳優の演技が下手なのか、不自然なセリフや態度が多く、がっかりすることが多い。ただこれは俳優個人の技量の問題だけではないかもしれない。

日本のドラマでは周到なリハーサルが行われるのに対して、韓国のドラマは週に2回放映されるものが多い関係で、リハーサルはあまりなされず、ぶっつけ本番で撮影され、俳優のアドリブでの演技が多いので、リアルに感じることができる、と聞いたことがある。